

撓度及振動ノ記錄

言計

百錢

土木學會誌

第一卷第二號

大正四年四月

工學博士 廣 井 勇

凡ソ構造物殊ニ橋梁ノ撓度及振動ヲ確實ニ觀測スルコトハ實驗工學上ニ於ケル一大要件ニシテ由來其方法ヲ講スル者尠ナカラス爰ニ本件ニ關シ田邊博士ノ施サレタル考案及實驗ノ結果ヲ得タルハ斯道ノ爲メ資スル處極テ多シトスルモノニシテ今後益觀測ノ範圍ヲ擴張セラレテ動荷ノ擊衝ニ關スル懸題ヲ解決セラレンコト希望ニ堪ヘサルナリ記者ハ本論中左記二三ノ點ニ就キ著者ノ説明ヲ乞ハントス

- 一 著者考案ノ撓度計ハ從來廣ク使用セラレタルらぶう式撓度計ト相似スル處アリ著者若シ兩機ヲ比用セラレシコトアラハ如何ナル優劣アリタルヤ
- 二 記掲セラレタル各試驗ニ於テ機關車働輪ノ對衝程度ヲ量リタルモノアラハ記載ヲ望ム
- 三 第五圖ノ場合ニ於テ歩速ハ構桁ノ擺期ト如何ナル關係アリシヤ
- 四 第六圖ニ於テ描示セル撓度ハ桁臺ノ降下ヲ控除シタルモノナルヤ